

外国人患者の受入体制整備



外国人患者を診療する様子



偕行会が運営する名古屋共立病院

偕行会グループ

多言語話者の人材獲得推進

医療法人偕行会グループ（本部名古屋市中川区法華1の161、川原弘久会長、電話052・363・7211）は、外国人患者の受け入れ体制を整えている。国内の人口減少が見込まれる中、多言語話者である医療人材の獲得などで体制を強化。同グループ所属の医師が海外で講演を行うなどでアピールし、受診を希望する外国人からの認知を獲得する。数年内に外国人の患者および健康診断受診者の受け入れ件数を、現在の約2倍にあたる500件に引き上げる。（中村光希）

受診者2倍に引き上げへ

外国人からの日本の医療や健康診断を受診するニーズは高まっている。中国では都市部に医療需要が集中

し、受付から受診まで数日かかる場合があるため、自国よりスムーズに医療措置を受けられる日本で受診する富裕層が増えている。中国以外でも各国それぞれの理由で、日本での受診を希望する外国人は多く、スムーズに受け入れる体制の構築が求められている。

偕行会グループでは、10年以上前から外国人患者の受け入れ体制を構築してきた。健康診断から受け入れを開始し、次第に医療分野にも取り組みを広げた。多言語による診療案内や

異文化に配慮した環境を整えたことが評価され、2015年に中部地区の民間病院で初めて、日本医療教育財団が運用する「外国人患者受け入れ医療機関認証」を受けた。20年には国立成育医療研究センターが設ける渡航受信者の受け入れ実績を評価する制度「ジャパンインターナショナルホスピタルズ」を取得した。

さらに、外国人患者に対応する専門部署の医療スタッフが約20人在籍し、案内や通訳を行う体制を構築している。中国、インドネシアなど5か国語に対応可能。今後も増員を検討している。国内だけではなく、海外にいる医療人材を採用するなど人材を拡充する方針だ。

一部表現に誤りがあります（ジャパンインターナショナルホスピタルズの認証元）

誤：国立成育医療研究センターが設ける渡航受信者～～

正：Medical Excellence JAPANより渡航受診者～～

中部経済新聞の許可を得て掲載しています。